

講和談判筆記第四回本會議

明治三十八年八月十五日午前十時開會

列席者前回ニ同シ

小村男 本日ハ是ヨリ第四條ヲ議セム

「ウヰッテ」氏 諾

小村男 本條ニ關シ貴回答書ニ於テ全然同意ヲ表セラレタルハ満足ノ至ナリ但シ本條ニ關シ萬一將來ニ誤解アラムコトヲ豫防セムト欲スルカ故ニ茲ニ一言シタキコトアリ即チ清國カ滿洲ノ都府並港市ヲ開クコトハ商工業ノ發達ノ爲メニ必要ナルモノナルニ右開放ノ場所ヲ單ニ滿洲ノ或一部ニ限ルニ於テハ其ノ効果充分ナル能ハサルヲ以テ其ノ場處ノ如何ニ拘ハラズ則チ其ノ鐵道線路ニ沿ヘル處ニ在ルト又他ノ地方ニ在ルトヲ問ハス之ヲ開クコトハ日露兩國共通ノ利益ナルカ故ニ右開港開市ニ付テハ兩國互ニ故障ヲ爲サ、ルコト、定メ置クノ精神ナリ

「ウヰッテ」氏 異議ナシ

小村男 抑モ此ノ事ニ關シ貴全權ノ注意ヲ喚起シタル所以ハ去ル千九百年義和團騷亂ノ後北京ニ於テ爲サレタル一般ノ約束ニ依リ日清新條約締結ノ交渉中滿洲ニ於ケル某某場所ヲ外國貿易ノ爲メニ開カムコトヲ清國ニ要求シタルニ露國ハ之ニ故障ヲ申立テタリ尤モ該故障ハ後ニ至リテ之ヲ撤回セラレタレトモ鐵道線路ニ沿ヒタル諸市

0210

ニ關シテハ尙依然トシテ之ヲ固持シタリキ此ノ如キ事情アルヲ以テ將來外國商業ノ爲メニ開クヘキ港市ニ關スル露國ノ意向ヲ確メムト欲シタルナリ

「ウヰッテ」氏 露國ハ滿洲ニ於テ各國貿易ノ爲メニ市或ハ港ノ開カル、コトヲ拒マントスルモノニアラス今小村男爵ノ述ヘラレタルコトハ義和團事變後滿洲カ混亂ノ状態ニ在リシヲ以テ鐵道線路ニ沿ヒタル或停車場所在地ノ都市ニ付露國政府カ清國政府ニ對シテ注意ヲ喚起シタルコトヲ指サル、モノナルヘシ

小村男 本員カ確メ置カムトスルハ全ク其ノ點ニ在リ本條ノ規定ヲ設ケントスル主意モ此ノ事ニ存ス尙後清國カ滿洲ニ於テ如何ナル都市如何ナル港灣果テハ滿洲全體ヲ開クコトアリトモ露國政府ニ於テ何等故障ヲ有セサルコトヲ確メ置クヲ要ス

「ウヰッテ」氏 其ノ點ニ就テハ毫モ異議ナシ但シ此約束ハ双互的ニシテ即チ遼東方面ヲモ含ムモノタルヲ要ス

小村男 本條ハ日露兩國相互的ノ約定ナリ

「ウヰッテ」氏 全ク同意ナリ就テハ會議錄中ニ本件ハ全ク相互的ナルヲ記載シ置カム

小村男 夫レニテ宜シ是ヨリ第五條ノ討議ニ移ルヘシ露國回答書ニ對シ覺書ヲ認メ置キタレハ一覽ヲ請フ

(トテ左ノ覺書ヲウヰッテ氏ニ交付ス)

五、日本國全權委員ハ第五條ニ關スル露西亞國全權委員ノ所見及論結ニ同意スルコト能ハサルコトヲ遺憾トス日本國全權委員ハ少クトモ薩哈噠島ノ大部分ニ對スル日

0211

本國ノ權利ハ露亞西國カ占領シタル以前ノ時代ニ遡リテ之ヲ認ムルコトヲ得ヘキ
ヲ信ス且該島タル亞細亞大陸系ノ自然ノ連續ニアラスシテ却テ日本帝國カ全然依
テ以テ組成セラル、島群連鎖ノ自然且必要ナル一部ヲナスモノナリト認ム然レト
モ日本國ヲシテ該島ノ讓渡ヲ要求スルニ至ラシメタル重要ノ事由ハ(第一)日本帝國
永遠ノ安全ハ日本國カ該島ヲ獨リ自ラ監理スルコトヲ要スルコト(第二)日本國ハ戰
争ノ運命ニヨリ薩哈噠島ヲシテ其ノ完全ナル占有ニ歸セシメ今ヤ該島ニ於ケル露
西亞國ノ官憲ハ日本國官憲之ニ代リ該島ハ全然日本行政ノ下ニ在ルコト是ナリ日
本國全權委員ノ希望スル所ハ斯ノ如クニシテ獲得シタル權利カ露西亞國ノ正式ノ
讓渡ニヨリ確認セラル、ニ在リ(原文ハ附屬書第一號及第二號)

「ウヰッテ」氏 (右覺書ヲ閱讀シタル後)

本員ハ遺憾ナカラ當初ヨリノ意見ヲ毫モ變更スルコト能ハス露國ハ極東ニ於ケル事
物ノ現狀ヲ承知スト雖薩哈噠島占領ノ事實ハ單ニ武力ノ結果ニシテ決シテ權利獲得
ノ行爲ニ非スト認ム

小村男 本條ヲ承諾セラレ難キ理由テ承リタシ

「ウヰッテ」氏 露國ノ威嚴ニ關セサル讓與ナラハ如何様ニモ都合ヲ附クルノ精神ニテ現
ニ是迄ノ莫大ノ讓與ヲ爲シ來レリ然レトモ露國カ正當ナル條約上ノ權利ニ依リ久シ
ク領有セル版圖ヲ割取セラル、コトハ露國ノ威嚴ト相容レサルモノナルヲ以テ同意
スル能ハサルナリ

小村男 歴史上ノ先例ニ鑑ミルニ歐洲強大國カ戦争ノ結果トシテ領土ヲ割讓シタルコ

ト多キカ故ニ領土割讓ノ一事決シテ大國ノ威嚴ヲ毀損スルモノニ非ス

ウヰッテ氏 然リ強大國ニシテ領土割讓ヲ諾シタル先例モ或ハ之アラム然レトモ是皆

敗罽ノ餘リ最早戦争ヲ繼續スル能ハサリシ邦國ナラサルハナシ露國ノ現状ハ決シテ

此ノ如キモノニ非ス

小村男 本員等ハ事物ノ進行カ其ノ極端ニ走ラサル前ニ平和ノ克復ヲ講セムカ爲メニ

此處ニ會シタルモノナリ依テ本問題ノ地位ヲ明ニシ以テ此處ニ於テ之ヲ解決セムト

欲ス

茲ニ聊カ薩哈噠島カ日本國ニ對シ如何ニ深キ關係ヲ有スルヤヲ説明セムニ今ヲ距ル

コト二百數十年ノ昔即チ千六百二十四年ニ於テ既ニ日本國官吏ハ同島ニ派遣セラレ

タリシナリ然ルニ露國人ノ始メテ同島ニ關係ヲ開キタルハ千八百三年露船ノ士卒難

船シテ長崎ニ來リソレヨリ同島ニ赴キテ其ノ一部ヲ襲ヒタルコトアルニ始マリ千八

百五十年ニ至リ露國士官ハ同島ノ北部ヲ占領シタルニ依リ同島ニ關スル日露間ノ談

判ハ千八百五十一年ニ始マリ千八百七十五年ニ至リ終了シ遂ニ條約ヲ以テ同島ヲ露

國ノ領有ニ委スルニ至リタルナリ故ニ條約及法律上ノ議論トシテ露國ノ從來該島ヲ

領有シタルヲ不法ナリト云フニハ非サルモ該島ニ關スル日本國民ノ道義上ノ感念ハ

最モ深厚ナリ依テ將來ノ誤解ヲ防カムカ爲メニハ該島ヲ日本國ノ領有ニ歸セシムル

コトヲ要ス且同島ノ領有ハ日本國ニ取リテハ國家ノ安全ヲ維持スル爲メニ緊要ナレ

0213

トモ露國ニ取リテハ單ニ殖民的及利益的ノ關係タルニ過キス又地勢上ヨリ之ヲ考察スレハ同島ハ日本帝國ヲ構成スル島群連鎖ノ一部ニシテ日本帝國カ同島ヲ領有スルコトハ國家永遠ノ安全ニ必要ナリ以上陳述シタル理由ハ同島割讓ノ必要ヲ示スニ足ルヘシト信スルカ故ニ露國全權委員ハ能ク本問題ニ對スル日本帝國ノ眞位地ヲ考量セラレタシ勿論同島ノ領有ハ日露兩國何レニモ利益アルモノニ相違ナキモ露國ニ取リテハ單ニ利益問題ニシテ之ヲ保ツモ又之ヲ失フモ露國ノ安全ニ對シ關係ナキニ反シテ日本ニ取リテハ國家ノ安全上不可缺モノナリ依テ貴全權委員ノ再考ヲ促ス

「ウヰッテ氏 先ツ歴史上ノ事實ニ付一言セン千八百七十五年以前ニ於テ日本ハ同島ノ南方一小部分ヲ占領シテ之ヲ管轄シ居リタルノミ北部ハ全ク無人ノ土地ナリシ而シテ千八百七十五年ニ正式ノ條約ヲ以テ露國ハ千島群島ヲ日本ニ與ヘ其ノ代リニ薩哈噠島ヲ取得シ露領ト確定シタルモノナリ是ハ歴史ノ事實ナリ次ニ經濟上ノ一點ヨリ觀察スレハ日本人ハ同島ノ農業及漁業等ニ關シ露國人ヨリモ一層大ナル利害ヲ有スルハ之ヲ認ム是レ日本カ同島ヲ領有スルコトヲ切望スル所以ナルヘシ故ニ本員等ハ右等ノ事項即チ漁業等ノ權利ヲ日本ニ讓與スルノ覺悟ナリ又政治上ノ方面ヨリ考察スレハ貴全權モ明言セラレタルカ如ク去ル千八百五十年露國人ハ黑龍江州ヲ占領シタルト同時ニ薩哈噠島ヲ占領シタリ是レ同島ヲ領有セサレハ黑龍江畔ノ領有モ亦事實上之ヲ持續スル能ハサルコト當時ヨリ既ニ露人ノ覺リタル所ナルニ因ルモノナリ又今回戰爭ノ實驗ニ依リ薩哈噠島ハ日本國ヲ侵撃スル爲メニ價値ナキモノニシテ且

露國ハ未タ嘗テ同島ヲ以テ日本侵略ノ根據ト爲スノ意思ナキコトヲ證明シタリ依テ露國カ同島ヲ領有スルコトノ日本ノ安全ニ害アリトスル貴説ニハ同意ヲ表スル能ハス之ニ反シテ日本國カ同島ヲ領有スルハ露國ノ門戸ニ哨兵ヲ設クルニ均シ日本國ノ希望スル所ハ夫レ或ハ隣人ノ門戸ニ哨兵ヲ設クルニ在ラム乎又兩國間永遠ノ平和ヨリ之ヲ考フルニ日本國カ同島ヲ領有スルヨリモ露國カ引續キ之ヲ領有スルコトノ遙ニ勝レルモノナルコト余ノ斷言スル所ナリ加之露國人民ハ決シテ露國ノ領土ヲ他國ニ割讓スルコトヲ了解スル能ハサルナリ

又歴史上ノ先例ニ照シテ之ヲ考察スルニ戰爭ノ結果トシテ領土ヲ割讓シタルノ結果ハ實ニ恐ルヘキモノアリテ兩國間ニ永續スル怨恨ヲ遺スモノナリ千八百七十年獨佛戰爭ニ於ケル獨逸國戰勝ノ結果トシテ佛國ヨリ「アルザース」「ローレーヌ」ノ二州ヲ合併シタルヤ兩國間ノ平和今ニ確立スルコト能ハス永ク互ニ敵視ス之ニ反シテ千八百六十六年ノ獨逸戰爭ニ於テ「ピスマーク」公ハ軍人ノ激烈ナル反對ヲ排斥シテ獨逸國ニ割地ヲ要求セサリシ故ニ其ノ結果トシテ兩國間ノ交情親密ニシテ今ニ至ル迄鞏固ナル同盟關係ヲ保持スルヲ得タリ又千八百六十五年露國ハ「グルジャ」ノ叛亂ニ際シ同地方ヲ占領シタリシモ事定マルノ後之ヲ清國ニ還附シタルニ因リ露清間ノ交情親密ナリ之ヲ要スルニ露國ハ割地ヲ諾シテ平和ヲ求ムルヲ要スル位地ニ在ラサルヲ以テ若シ本員等ニ於テ此處ニ薩哈噠島ヲ日本國ニ割讓スルヲ諾スルニ於テハ輿論ハ決シテ之ヲ了解スルヲ得サルヘシ況ンヤ日本國カ薩哈噠島ヲ領有スルハ東洋永遠ノ平和ノ爲メ

ニ取ラサルニ於テヲヤ

小村男 貴説ノ如ク千八百五十年ニ露國官吏カ薩哈噠島ニ顯ハレ來リタルハ事實ナリ
然レトモ日本人ハ常ニ之ヲ以テ露國ノ侵略ト見做シタリ又千八百七十五年千島ト薩
哈噠島ト交換スルノ條約ヲ日露間ニ締結シタルハ事實ニシテ法律上ヨリ云ヘハ正當
ナル取引タルヘシト雖右露國ノ爲シタル薩哈噠島占領ハ其ノ外交ヲ以テシタルト將
タ兵力ヲ以テシタルトヲ問フコトナク日本人ハ之ヲ以テ正當ナル行爲トナサス即チ
露國ノ侵略ニ外ナラス當時日本國カ強者ノ力ニ服シタルハ所謂不可抗力ニ服シタル
モノナリトノ信念ヲ抱キ今日ニ至リ少シモ變スルコトナシ又經濟上ノ一點ニ付貴全
權委員カ日本國ノ薩哈噠島ニ對スル利益ハ露國ノ之ニ對スルモノヨリモ勝レルコト
ヲ認メラレタルハ本員ノ満足スル所ナリ次ニ政治上ノ見地ヨリ複言セムニ同島ハ日
本帝國ヲ構成スル群島連鎖ノ一部分ニシテ日本國々運ノ中心ニ甚タ近キカ故ニ同島
ヲ領有スルト否トハ日本國ニ取リテ實ニ最モ緊切ナル問題ナリ之ニ反シテ同島ハ露
國ト中心點ヲ距ルコト甚タ遠ク之ヲ棄ツルモ露國ノ運命ニ何等至大ノ關係ヲ及ホス
モノニ非サルヘシ貴説ニ依レハ薩哈噠島ノ領有ハ黑龍江州ノ保有上必要ナリトノコ
トナルカ若シ果シテ右様ノ懸念アラムニハ日本國ハ之ニ對シ必要ナル保證ヲ與フル
ニ躊躇セサルヘシ又貴全權委員ハ領土割讓ノコトニ付説示セラレタルカ本員ハ夫ノ
常ニ善隣ノ好誼ヲ他國ト保タントスル露國ニ於テモ度々隣國ニ對シ割地ヲ要求シタ
ル歷史上ノ先例ヲ貴全權委員ニ回想セシメムトス抑モ割地ヨリ兩國間ニ惡感及怨恨

0216

ノ情ノ起ルヤ否ヤハ偏ニ割地ニ至リタル理由如何ニ因ルモノニシテ薩哈噠島割讓ノ事ノ如キハ固ヨリ當然ノ請求ニシテ毫モ右ノ如キ感情ヲ惹起スヘキ筈ナシ依テ本員ハ切ニ希望ス露國全權委員ニ於テ能ク日本國カ如何ニ本件ヲ重要視スルヤヲ明察セラレ重テ本問題ヲ充分ニ研究セラレムコトヲ再言スル迄モナク日本國ハ永遠ノ平和ヲ希望スルモノナルカ故ニ薩哈噠島ヲ以テ露國ニ對スル侵略ノ根據トナス様ノコトハ決シテ之レ無シ終リニ本員ハ希望ス露國全權委員ハ以上所陳ノ理由ヲ以テ同島割讓ニ充分ナルモノト認メラレ本員ヲシテ戰爭ノ法理ニ基ケル他ノ理由ヲ主張スルノ已ムヲ得サルニ至ラシメサラムコトヲ

「ウヰッテ氏 本員ハ茲ニ總テノ意見ノ撞着ヲ調和スルヲ得ヘキ一案ヲ提出セムト欲ス」本員ハ露國カ薩哈噠島ヲ領有スルコトヲ以テ日本ニ對スル侵迫ナリトスル貴說ニ同意スル能ハス露國カ同島ヲ領有セルヨリ以來三十年ノ久シキニ達スルモ露國ハ未ダ曾テ同島ニ軍事的設備ヲ爲シタルコトナク又今回ノ戰爭ニ於テモ同島ヲ以テ日本侵略ノ根據ト爲シタルコトナシ此等ハ皆同島カ軍略上何等ノ價值ナキヲ證明スルモノナリ之ニ反シテ日本カ同島ヲ領有スルコトハ其ノ大陸ニ對スル地勢的關係上露國ノ黑龍江畔ノ領有ニ對スル危險ノ原因タリ從テ世界ノ此ノ部分ニ對スル平和攪亂ノ種子タルヘシ地理上有形ノ狀態ヨリ立論シテ同島カ日本群島連鎖ノ一タルカ將又大陸ノ繼續ナルヤヲ決スルハ寧ロ困難ナルコトナレトモ同島ノ舊土民ハ日本人種ニ非スシテ全ク之ニ異ナレルモノナルカ故ニ同島ハ日本人種ノ棲息地ニ非スト云フヲ得ヘ

0217

シ又貴全權委員ハ露國カ外國ノ領土ヲ要求シテ之ヲ割讓セシメタル先例ヲ擧ケラレタルカ割地ハ常ニ露國ト之ヲ爲シタル國トノ間ニ永ク葛藤ヲ生シタルモノナリ次ニ永遠ノ平和ヨリ之ヲ見レハ薩哈噠島ノ割讓ハ決シテ適當ナルモノト見做スヲ得サルヲ以テ兩國間永ク不快ノ原因タルヘシ且此ノ事タル露國ノ威嚴及露國人ノ自負心ニ最モ反對スルモノナルカ故ニ本員ハ決シテ之ヲ諾スルヲ得ス唯茲ニ兩國ノ利益ヲ調和スヘキ一案ハ日本國ノ同島ニ於ケル實益ノ重大ナルヲ承認シテ實質的及經濟的ノ讓與ヲ日本人ニ對シ爲サムトスルニ在リ故ニ此方面ノ提案ハ喜テ之ヲ諾スヘシ

小村男 貴全權委員ハ今回ノ戰爭ハ薩哈噠島ノ日本ニ對スル侵略ノ根據タラサルヲ證スルモノナリトノ說ヲ陳述セラレタルカ若シ今回戰爭ノ主タル戰場カ滿洲ニ非スシテ例ヘハ沿海州及沿黑龍江州地方等ニ在リシナランニハ同島カ戰略上重要ノ價值ヲ有スルヤ明瞭ナルヘシ又同島カ大陸系統ニ屬スルヤ將又日本群島連鎖ノ一部タルヤヲ地勢上ヨリ斷定スルコトハ困難ナラムモ千八百年日本人間官ナル者同島ト大陸トヲ隔ツル海峽ヲ發見シ其ノ名該海峽ニ付與セラレ地圖ニ於テ間官海峽トシテ知ラレタルハ茲ニ注意ヲ喚起スルノ價值アリトス又本員等ハ幾多ノ事實ニ依リ最初ニ同島ヲ占領シタルモノハ露國人ニ非スシテ實ニ日本人ナルヲ證明スルヲ得ヘシ是故ニ其後露國カ同島ヲ領有スルニ至リタルノ事實ハ其ノ軍事的措置ニ依リタルト將タ外交上ノ手段ニ依リタルトヲ問フコトナク日本人民ハ常ニ之ヲ目シテ日本國ニ對スル侵略ノ行動ト爲セリ日本人民ノ此ノ感情ハ實ニ數十年間因襲傳來シタルモノニシテ常

ニ存在シ殊ニ今回ノ同島占領ノ事實ハ此ノ感情ヲシテ極度迄熱熾トナラシメタリ
「ウ井ッテ氏」軍略上ノ見地ヨリ薩哈噠島ノ價值ヲ論セムニ露國ハ同島領有以來未タ嘗
テ軍事的措置ヲ施シタルコトナク從テ決シテ日本ニ對スル侵迫ノ原因タルノ理ナシ
唯露國ノ大陸領地ニ對スル防禦ノ地點タルヘキノミ將又同島海峽ノ第一發見者及其
ノ年代ニ關シテハ本員ハ精確ナル材料ヲ此處ニ有セサルカ故ニ假リニ貴全權委員ノ
主張ノ如ク之ヲ日本人ナリトスルモ可ナリ則チ右第一發見者ハ日本人タルニモセヨ
日本國ハ千八百五十年以前ニ於テハ同島ニ別段ノ利害關係ナキモノト思惟シタルモ
ノ、如ク露人「ムラフイヨフ」之ヲ占領スルニ及ヒテ俄ニ同島ニ對スル注意ヲ高ムルニ
至リタルナリ是レ蓋シ同島カ日本國ニ對スル侵略ノ根據タルヘキヲ懸念シタルヨリ
出テタルモノナラム乎將又貴全權委員ノ度々唱道セラレタル國民ノ感情ノ一點ニ關
シテハ本員ハ固ヨリ日本國民ノ薩哈噠島ニ對スル感情ノ存在ヲ領ス然レトモ是レ單
ニ日本國カ第一ニ同島ヲ占領處有セスシテ終ニ露國ノ有ニ歸シタルヲ遺憾トスルノ
情ニ過キス之ニ反シ同島割讓ヨリ生スヘキ露國人民ノ感情ハ三十年以來露國ノ所有
タル領土ヲ喪失スルニ基クモノナリ

小村男 歷史上ノ見地ヨリ觀察シテ日本國カ往昔充分ニ同島ヲ占領セサリシコトハ之
ヲ認ムヘシ然レトモ日本國ハ千八百三年以來同島ノ政治ヲ計畫シタルハ事實ニシテ
唯當時本國トノ交通頗ル不便ナリシカ故ニ充分有效ニ其ノ事業ヲ行フコトヲ得サリ
キ然レトモ千八百五十年ニ至リテハ日本政府ハ鉛意ニ同島ノ政治ヲ經營シ其ノ效ヲ

0219

收メタリ如上ノ理由アルニ依リ日本國民ノ同島ニ關スル感情ハ最近半世紀間常ニ最モ鋭敏ニシテ露國ノ同島保有ヲ以テ日本國ノ同島ニ對スル領土權ヲ侵害シタルモノト看做シタリ而シテ此ノ感情ハ近來極度迄熱熾トナリタルコトハ既ニ述ヘタル所ノ如ク如何ナル措置ト雖之ヲ緩和スルヲ得サルナリ本員モ亦露國人民ノ同島ニ對スル感情ノ存在ヲ領スト雖モ日本人民ノ感情ハ日本國ノ權利及名譽ニ對シ侵害ヲ被リタリトノ信念ニ基クモノ故露國人民ノ感情ヨリモ一層熾盛ナルモノナリ

「ウヰット」氏 日本人民ノ感情ハ之ヲ要スルニ薩哈噠島カ未タ「ムラヴィヨフ」ニ依テ占領セラレス則チ無主ノ土地タリシ時之ヲ占領セサリシヲ遺憾トスルヨリ生スルモノニ過キス然ルニ日本國カ右「ムラヴィヨフ」占領前ニ之ヲ占領セサリシハ同島ヲ全ク輕視シタリシニ起因スルコトナルヘシ右ノ如キ遺憾ノ念ヨリ生スル感情ニシテ果シテ貴全權委員ノ云ハル、如ク熾盛ナルモノナラムニハ三十年間合法的ニ領有シタリシ同島ヲ喪失スルヨリ生スヘキ露國人民ノ感情ハ如何ニ強盛ナルヘキヤ想像スルニ餘リアルヘシ是レ露國ノ斷シテ同島割讓ニ同意スル能ハサル所以ナリ且又本件ニシテ露國ノ威嚴ニ關セサル問題ナラムニハ之ヲ承諾スルノ途モアルヘシト雖同島割讓ハ露國ノ威嚴ニ關スルコト大ナルヲ以テ何等妥協ノ法ナシ但シ露國全權委員ハ講和ノ至情ニ富メルヲ以テ同島ニ關スル事柄ニ關シテモ露國國民ノ名譽ト兩立スヘキ讓與ハ凡テ之ヲ日本臣民ニ與フルコトニ躊躇セサルヘシ

小村男 本員ハ同島割讓ニ關スル露國人民ノ感情ノ存在スルヲ無視スルモノニ非スト

雖半世紀以來常ニ存在シタリシ日本國民ノ感情ハ先般實行セラレタル同島占領ノ事實ニ依リテ極度迄熱熾ト爲リタリ是レ同島割讓ヲ求ムル理由ノ一ナリ

第二ノ理由ハ同島ヲ領有スルコトタルヤ日露兩國何レニ取リテモ重要ナルコトナレトモ露國國運ノ中心ハ遙ニ同島ヨリ遠カルカ故ニ露國ニ取リテハ單ニ利益ノ問題タルニ過キス之ニ反シ日本ハ同島ニ近ク其ノ國運ノ中心ヲ有スルカ故ニ日本ニ取リテハ實ニ國安ニ關スル最モ緊切ノ問題ナリ

第三ノ理由ハ日本國カ同島ヲ領有スルニ至ルモ單ニ之ヲ以テ國防ノ用ニ供スルノミニシテ決シテ之ヲ以テ侵略ノ根據ト爲サ、ルヲ以テ右領有ハ決シテ露國ニ對スル侵迫ト爲リ得ヘキモノニアラス

第四ノ理由ハ本問題ニ關シ露國ノ執ルヲ得ヘキ手段二アリ一ハ此ノ際何等ノ措置ニ出ツルコトナク暗黙ノ間ニ日本國占領ノ事實ヲ承認スルコト二ハ同島處分問題ニ關シテ日本國ト協定ヲ爲スコト即チ是ナリ

第五ノ理由ハ日露兩國將來ノ關係ノ爲メニ計ルニ此ノ際双方協議シテ本問題ヲ満足ニ解決シ置キ以テ今後兩國間ニ誤解不和若クハ撞着ノ生スルコトヲ豫防スルヲ要ス本員ハ露國全權委員ニ於テ前陳諸理由ニ對シ交讓ノ精神ヲ以テ更ニ最モ適切ナル考量ヲ加ヘラレムコトヲ熱望ス

「ウヰッテ」氏 貴全權委員ノ今陳述セラレタル諸理由ニ對シテハ既ニ答辯シタル所ヲ以テ充分ナリト信スルカ故ニ茲ニ之ヲ複說スルヲ要セス就テハ貴全權委員ニ於テ別箇

0221

ノ新案ヲ提出セラレサルニ於テハ双方到底一致ニ達スルヲ得ス

小村男 貴全權委員ノ本件ニ關スル一般ノ思想ハ既ニ之ヲ知ルヲ得タリ然レトモ本員ハ更ニ右五箇條ノ理由ヲ具シ貴全權委員ノ考量ヲ煩ハス殊ニ右第五ノ理由ニ對シテハ特ニ留意アラムコトヲ切望ス

「ウヰッテ」氏 本問題ハ露國回答中ニ陳述シタル如クニシテ之ヲ處分スルヲ要スルモノナリ

小村男 既ニ陳述シタル諸理由アルカ故ニ本員ハ到底露國案ニ同意スルコト能ハス

「ウヰッテ」氏 本員モ亦既ニ陳述シタル理由ニ依リ到底日本案ニ同意スルコト能ハス而シテ本件ニシテ双方ノ同意ヲ經サル以上ハ會議モ此上進行セシムルコト能ハサル次第ナリ

(暫時默考ノ後)

併シナカラ此儘他條ノ討議ニ移ルノ途モアリ兩者其ノ一ヲ採用スルヲ要ス貴全權委員ニハ此ノ上他條ノ討議ヲ繼續スルヲ無益ト思考セララル、ヤ

小村男 貴説ノ如ク茲ニ二個ノ途アリ本員ノ意見ニヨレハ本條ニ關スル双方意見ノ相違ヲ認メタル上他條ノ討議ニ移ル方可然ト思料ス

「ウヰッテ」氏 貴意ノ如ク實行セム

(コレヨリ左ノ新聞通知案ヲ協定シ午後零時三十分休會)

新聞通知文

八月十五日午前ノ會議ニ於テ第四條及第五條ヲ討議シ第四條ハ一致ヲ以テ協定セラレタリ第五條ニ就テハ一致ノ決定ニ到達スルコト能ハサリシヲ以テ全權委員ハ意見ノ異ナルコトヲ認メテ他ノ條項ノ討議ニ進ムコトニ決シタリ
會議ハ本日午後三時再ヒ開カルヘシ(原文ハ附屬書第三號)

午後三時三十分再會

「ウヰッテ」氏 是ヨリ會議ヲ開カム

小村男 然リ講和條件第六條ノ討議ヲ開始セム就テハ該條ニ關シ日本全權委員ハ一ノ覺書ヲ作成シタルカ故ニ研究ノ上同意セラレムコトヲ乞フ

(トテ左ノ覺書ヲ英文ニ認メ佛譯文ヲ添ヘテ「ウヰッテ」氏ニ手交セリ)

六、露西亞國全權委員ハ本條ニ對シ主義ニ於テ何等故障ヲ有セサルヲ以テ日本國全權委員ハ形式上ノ困難ハ直ニ排除シ得ザルヘシト信ス日本帝國政府ハ露西亞帝國政府ヲシテ清國ニ對スル一切ノ責任ヲ免レシムル方法ヲ以テ本條規定ノ讓渡ヲ受諾スヘシ此ノ結果ハ該規定ヲ左ノ如ク書載スルコトニヨリ得ラルヘシ

露西亞帝國政府ハ日本國ノ利益ノ爲メ旅順口、大連並ニ其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權及該租借權ニ關聯シ又ハ其ノ一部ヲ組成スル一切ノ權利、特權、讓與及免許ヲ拋棄ス

又露西亞國政府ハ前記租借權カ其効力ヲ及ホス地域ニ於ケル一切ノ公共營造物

0223

及財産ヲ日本國ニ讓渡ス又日本帝國政府ニ於テハ前記地域ニ於ケル個人ノ財産
權カ尊重セラレヘキコトヲ約ス

(原文英文佛譯文ハ附屬書第四號及第五號)

「ウヰッテ氏 (右文書ヲ閱覽シ且ツ之ヲ露國回答書ト比較シタル上) 新案ノ文言ニ關シテ
ハ異議ナシ然レトモ其ノ説明ハ曩ニ露國全權委員ノ爲シタル回答ノ趣旨ト相違セリ
該回答書ニ於テ本員ノ陳述シタル思想ハ旅順口ノ租借ハ清國トノ契約ナルカ故ニ露
國ノ一存ヲ以テ拋棄スルヲ得スト云フコトニシテ清國ニ對スル責任ノ問題ニ非サル
ナリ

小村男 貴全權委員ニ於テ新文案ニ關シ異存ナシトノ儀ナラハ之ニ關スル説明ハ全ク
之ヲ撤回スルモ可ナリ

「ウヰッテ氏 本員ハ貴新案中露西亞帝國政府ハナル文字ノ下ニ清國政府ノ承諾ヲ經テ
ナル文字ヲ附加セムコトヲ提議ス何トナレハ該租借權ハ清國トノ契約ニ依リテ所有
スルモノナレハ豫メ清國ノ承諾ヲ得サレハ之ヲ讓渡スヲ得サルモノナレハナリ但シ
コレハ本員ノ思想ノ大體ノミニ止マリ其ノ字句ノ如キハ更ニ修正ヲ要スルコトアル
ヘシ

小村男 貴提議ノ如ク清國政府ノ承諾ヲ經テノ文字ヲ附加スルコトハ我新案ヲ採用ス
ル以上ハ全ク無用ニ屬スヘシ何トナレハ舊案ニ於ケルカ如ク租借權ヲ日本國ニ讓渡
スルコト、セハ貴方提案ノ如ク豫メ清國ノ承諾ヲ經ルコトヲ要スルナラムモ我新案

ノ如ク單ニ該租借權ヲ拋棄スルコト、爲シタル以上ハ清國政府ノ承諾ヲ經ルヲ要セサルノ理ナリ貴方回答書中ニ該租借權ハ清國政府ノ承諾ヲ經サレハ之ヲ讓渡スコト能ハサル旨ヲ記載シアリタルニ付右形式上ノ困難ヲ排除セムカ爲メニ新案ヲ提出シタル次第ニシテ凡ソ契約上ノ權利ヲ拋棄スル爲メニハ決シテ第三者ノ承諾ヲ要セサルナリ

「ウヰッテ」氏 貴方ノ新案ノ如キハ單ニ文字ノ變化ニ過キスシテ其ノ意義ニ至リテハ毫モ貴方ノ舊案ト異ナルコトナシ

小村男 然ラス露國ハ其ノ自國ニ關スル限り其ノ權利ヲ拋棄スルヲ得ルノ理ナリ

「ウヰッテ」氏 若シ日本兩國政府ニ於テ權利ノ讓渡ヲ約束シタル以上之ニ對シテ清國政府ノ承諾ヲ得ルコト敢テ難事ニ非サルヘシ

小村男 然レトモ露國案ニ記載シタル如ク附加文言ヲ保存シ置カハ右ノ承諾ヲ清國政府ヨリ得ヘキモノハ露國政府ニシテ日本國政府ニ非サルナリ然ルニ右ノ附加文言ヲ削除スルニ於テハ右ノ承諾ヲ清國政府ヨリ得ヘキモノハ日本國政府タルヘキナリ

「ウヰッテ」氏 正シク貴説ノ如シ依テ右附加文言ヲ保存シ置キ以テ露國政府自ラ清國政府ノ承諾ヲ得ルコト、爲スヲ要スルナリ

小村男 不可ナリ露國ノ租借權拋棄ハ完全且現實ナラサルヘカラス單ニ紙上ノ空文ナルヘカラス

「ウヰッテ」氏 我案ニ依ルモ露國ノ租借權拋棄ハ現實ニシテ的確ナルモノナリ

0225

小村男 否、右租借權拋棄カ條件附ナル以上ハ第三者ノ意思ニ繫屬スルノ結果ト爲リ日
國ニ取リテ價値ナキモノトナルヘシ

「ウヰッテ」氏 本員ハ何カ故ニ貴全權委員ニ於テ露國案ニ對シ異議ヲ唱ヘラル、ヤヲ解
スル能ハス何トナレハ露國ハ租借條約一方ノ當事者タルカ故ニ他方ノ當事者タル清
國ノ權利ヲ顧ミスシテ恣ニ該條約ヲ處分スルカ如キ位地ニ立ツコトハ如何ナル場合
ニ於テモ其ノ決シテ爲シ得サル所ナレハナリ且露國ニシテ自ラ該條約ヲ處分セサル
以上ハ何人ト雖モ叨リニ該條約ヲ處分シ得ヘキ筈ナシ

小村男 本員ハ決シテ露國ノ誠意ヲ疑フモノニ非ス

「ウヰッテ」氏 然ラハ貴全權委員ハ何カ故ニ尙異議ヲ固持セラル、ヤ

小村男 我第一案ノ如ク租借權ヲ日本國ニ移轉讓渡スルニハ清國政府ノ承諾ヲ要スル
モ該租借權ヲ拋棄スル爲メニハ決シテ右ノ同意ヲ要セサレハナリ

「ウヰッテ」氏 既ニ陳述シタル如ク此ノ區別ハ文字上ノ變化ニ過キサルナリ

小村男 否、我新案ノ如ク露國ハ日本國ノ利益ノ爲メニ租借權ヲ拋棄ストセハ其ノ結果
タルヤ露國ハ該租借權ヲ拋棄シタル上日本以外ノ列國カ之ヲ取得スルニ故障ヲ容ル
ルヲ得ヘク獨リ日本國カ之ヲ取得スルニ至ルヲ承認スヘキコト、ナルナリ

「ウヰッテ」氏 凡ソ契約ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ合意ヲ得スシテ任意ニ該契約
ノ目的物ヲ第三者ニ移轉シ得ヘキ理ナシ

小村男 目的物ノ移轉ト其ノ拋棄トノ間ニハ大差アリ

「ウヰッテ氏 本條ニ就テハ貴我双方ノ間既ニ意思ノ合致アルニ拘ハラス尙此ノ一點ニ付異議ヲ固執セラル、眞正ノ理由如何

(トテ他案ヲ提出セントス、此間ローゼン男ハ「ウヰッテ氏ニ説テ曰ク要スルニ清國ノ承諾ヲ露國カ得ルコト、スルカ日本カ得ルコト、スルカニツキ双方ノ意見一致セサルモノナレハ寧ロ兩國共同シテ清國ノ承諾ヲ得ルト云フコトニセハ纏マラント

「ウヰッテ氏曰ク其レハ得策ナラスト)

小村男 本問題ニ關シテハ本員等既ニ慎重ナル研究ヲ遂ケタリ而シテ我新案ヲ措テ他ニ露國全權委員ノ提起シタル形式上ノ困難ヲ排除スルヲ得ヘキ方法ナシ他ノ諸方案ハ皆有効ナルモノニ非ス

「ウヰッテ氏 露國ハ其ノ條約對手ノ承諾ナクシテハ該條約ヲ取消スコトヲ得ス且如何ナル形式ヲ採用スルニモセヨ結局清國ノ承諾ヲ要スルナルヘシ

小村男 日本全權委員ニ於テハ他ノ良文案ヲ發見スル能ハサレトモ若シ露國全權委員ニ於テ適當ナル一案アラハ之ヲ研究セム

「ウヰッテ氏 貴全權委員異議ノ基礎如何

小村男 本國修正案ノ採用セラレタル場合ニ於テハ清國ノ承諾ヲ得ヘキモノハ露國ニシテ日本國ニ非ス本員等ハ露國ノ誠意ヲ疑フニハ非サルモ條約面ニ於テハ日本國ニ於テ清國ノ承諾ヲ得ヘキコト、定メ置クヲ要ス

「ウヰッテ氏 既ニ述ヘタル如ク露國ハ契約ノ當事者ナルカ故ニ清國ノ承諾ヲ得ルコト

ハ露國自ラ之ニ任セザルヘカラス

小村男 然ラハ寧ロ日露兩國共同シテ清國ノ承諾ヲ得ヘキコト、爲サム

「ウヰッテ」氏 貴我兩國ノ清國ニ對スル關係ヨリ見ルニ兩國一致シテ清國ノ承諾ヲ求ムルコト、スル方清國ノ感情ヲ損傷セサルノ效アラム

小村男 若シ日本國政府カ前記規定ノ承諾ヲ清國政府ヨリ得ヘキコトニ關シ露國政府ハ日本國政府ト共同ノ措置ヲ執ルヘシトノ一句ヲ附加セハ日本側ノ異議消滅スヘシ
「ウヰッテ」氏 兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ストノ體裁ト爲サム

小村男 夫レニテモ差支ナシ但シ此ノ場合ニ於テハ本條初段ニ露西亞帝國政府ハ日本國ノ利益ノ爲メニ……………ヲ拋棄ストアルヲ改メテ露西亞帝國政府ハ……………日本國政府ニ移轉讓渡スト爲スヲ要ス

「ウヰッテ」氏 就テハ書記官ヲシテ該文案ヲ起草セシメテハ如何

小村男 諾是ニ於テ小村男爵ハ自ラ筆ヲ執リ英文ヲ以テ左ノ文案ヲ起草シ之ニ佛譯文ヲ添テ「ウヰッテ」氏ニ手交ス

第六條修正案

六露西亞帝國政府ハ清國政府ノ承諾ヲ以テ旅順口、大連並其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權及該租借權ニ關聯シ又ハ其ノ一部ヲ組成スル一切ノ權利、特權及讓與ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス露西亞帝國政府ハ又前記租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域ニ於

ケル一切ノ公共營造物及財産ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス

兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

日本帝國政府ニ於テハ前記地域ニ於ケル露西亞國臣民ノ財産權カ尊重セラルヘキ

コトヲ約ス(原文英文及佛譯文ハ附屬書第六號及第七號)

「ウヰンツテ」氏 全然贊成ス、但シ末項……………尊重セラルヘキコトヲ約ス」ノ前ニ「完全ニ」ノ一

句ヲ挿入セムコトヲ希望ス

小村男 諾、コレニテ第六條ハ確定シタルナリ

「ウヰンツテ」氏 然リ、是ヨリ新聞通知案ヲ起草セシメム

小村男 諾

是ニ於テ書記官等ハ左ノ案ヲ起草シ双方全權委員之ヲ承認シタル後午後六時散會セ

新聞通知文

八月十五日午後ノ會議ニ於テ第六條ヲ討議シ相互ノ一致ヲ以テ之ヲ協定シタル後明

朝九時迄休會セリ(原文ハ附屬書第八號)

0229

第一號

5. The Plenipotentiaries of Japan regret to say that they are unable to share the views and conclusions of the Plenipotentiaries of Russia on the subject of Article V. They believe that Japan's title to at least a larger part of Saghalien can readily be traced to a period anterior to the Russian occupation and it seems to them that instead of being a natural continuation of the continental system of Asia, it forms a natural and necessary link in the chain of insular units of which the Empire of Japan is exclusively composed. But the main considerations which led Japan to ask for the cession of the Island are that (1st) the permanent security of the Japanese Empire requires the exclusive control of the island by Japan and (2nd) by the hazard of war Saghalien has come into the complete possession and occupation of Japan and it is now under her exclusive administration, the authorities of Russia having been replaced by those of Japan. What the Plenipotentiaries of Japan desire is to have the title thus acquired confirmed by a formal cession from Russia.

第二號

(Traduction)

5. Les Plénipotentiaires du Japon regrettent de constater qu'ils sont dans l'impossibilité de partager les vues et les conclusions des Plénipotentiaires de Russie au sujet de l'Article V. Ils croient que le titre du Japon à la majeure partie au moins de Sakhaline peut être facilement démontré même à l'époque antérieure à l'occupation russe; et il leur semble qu'au lieu d'être la continuation naturelle du système continental de l'Asie, cette Ile constitue un anneau naturel et nécessaire de la chaîne des unités insulaires dont l'Empire du Japon se compose exclusivement. Mais les considérations principales qui ont amené le Japon à demander la cession de cette Ile sont: (1) la sécurité permanente de l'Empire du Japon exige le contrôle exclusif de l'Ile par lui, et (2) par la fortune de la guerre, Sakhaline est entrée dans la possession et l'occupation complètes du Japon, et elle se trouve actuellement sous son administration exclusive, les autorités Russes ayant été remplacées par celles du Japon. Ce que les Plénipotentiaires du Japon désirent, c'est de voir le titre ainsi acquis se confirmer par une cession formelle de la Russie.

百十

第三號

In the morning sitting of August 15th, the Conference has discussed articles IV and V. Article IV was unanimously agreed upon. Not being able to arrive at an

0230

unanimous decision on Article V, the Plenipotentiaries have decided to take note of the divergency of views and to proceed with the discussion of the other Articles. The meeting will be resumed at three o'clock this afternoon.

第四號

6. The Plenipotentiaries of Russia having no objection in principle to this Article, the Plenipotentiaries of Japan believe that the technical difficulties may readily be removed. The Imperial Government of Japan are prepared to accept the transfer in such manner as to relieve the Imperial Government of Russia of all responsibility towards China. That result would be realized if the stipulation were made to read :

The Imperial Russian Government relinquish in favour of Japan the lease of Port Arthur, Talien and adjacent territory and territorial waters, and all rights, privileges, concessions and franchises connected with or forming part of such lease and they also assign and transfer to Japan all public works and properties in the territory affected by the above-mentioned lease. The Imperial Government of Japan on their part undertake that the actual proprietary rights of individuals in the territory above referred to, shall be respected.

第五號

(Traduction)

6. Les Plénipotentiaires de Russie n'ayant aucune objection en principe à cet Article, les Plénipotentiaires du Japon croient que les difficultés techniques pourront être facilement écartées. Le Gouvernement Impérial du Japon est prêt à accepter le transfert d'une manière telle qu'il dégage le Gouvernement Impérial de Russie de toute responsabilité envers la Chine. Ce résultat pourrait être obtenu, si la stipulation était rédigée comme il suit :—

Le Gouvernement Impérial de Russie renonce en faveur du Japon le bail de Port Arthur, de Talien et du territoire et des eaux territoriales adjacents, ainsi que tous les droits, privilèges, concessions et franchises se rattachant à ou faisant partie de ce bail, et il cède de plus au Japon tous les travaux et propriétés publics dans le territoire sur lequel s'étend le bail susmentionné. Le Gouvernement Impérial du Japon donne, de sa part, l'assurance que les droits de propriété d'individu dans le territoire indiqué ci-dessus, seront respectés.

0231

第六號

6. The Imperial Russian Government transfer and assign to Japan, subject to the consent of the Chinese Government, the lease of Port Arthur, Talien and adjacent territory and territorial waters and all rights, privileges, concessions and franchises connected with or forming part of such lease and they also assign and transfer to Japan all public works and properties in the territory affected by the above mentioned lease.

The High Contracting Parties mutually engage to obtain the consent of the Chinese Government mentioned in the above stipulation.

The Imperial Government of Japan on their part undertake that the proprietary rights of Russian subjects in the territory above referred to, shall be respected.

第七號

Le Gouvernement Impérial de Russie cède au Japon à condition du consentement du Gouvernement de Chine, le bail de port Arthur, de Talien, des territoires et eaux territoriales adjacents, ainsi que tous les droits, privilèges, concessions et franchises se rattachant à ce bail ou en faisant partie, et il cède au Japon tous les travaux et propriétés publics dans le territoire sur lequel s'étend le bail susmentionné.

Les Hautes Parties Contractantes s'engagent mutuellement à obtenir le consentement du Gouvernement Chinois, mentionné dans la stipulation ci-dessus.

Le Gouvernement Impérial du Japon donne, de sa part, l'assurance que les droits de propriété des sujets russes dans le territoire indiqué ci-dessus, seront respectés.

第八號

In the afternoon-sitting of the Conference of August 15th, Article VI has been discussed and agreed upon with common accord and adjourned until to-morrow morning 9 o'clock 30.